The Japanese Society for Plant Systematics

May, 1967


137

まではある。

コハマギクは、これに関する南の亜種で、分布は、北海道の根室から大西洋に至る、渡島まで、本州は陸奥、津軽半島の竜飛崎（村井三郎：青森植物研究会会報 1 : 57, 1935：1959 年
7 月 27 日黒沢幸子，東大標本）から大西洋に沿って陸中、陸前、磐城、常陸の桁川から
河原子におよぶ。コハマギクの染色体数は田原正人博士によれば 2n=90 である。

コハマギクの果実は、果皮の横断面に粘液細胞があり、水にしたすと膨れて粘る。清水建美，植物分類地理 XVII：109, 1958)。

コハマギク×キク Chrysanthemum miyajimense Kitamura

コハマギクとキクとの雛種は、陸前宮戸島に野生していた。これは木村有香博士が 1929 年
11 月 2 日に採集された。私は同博士に導かれて、その地に採集し、植物分類地理 5 巻 28 頁 (1936) に新雛種として発表した。岡部他博士が 1949 年 10 月に私に教へて下さったところ
によれば 2n=72 である。

終りにキク属研究の内外諸学者、標本や資料を公げの標本室に寄贈して下さった方々に敬意
を表し、御礼を申し上げます。

本研究は、昭和 41 年度文部省科学研究費補助金（総合研究：課題番号 4089 研究課題東亜関
連植物の研究）によるものである。

カギカズラとアラゲカギカズラ　カギカズラ Uncaria rhynchophylla Miquel は本州の安
房以西から四国・九州に分布するが、中国に産する。中国に産することは、日本の学者は疑
う人が多いが、嶺南大学の交換標本で、広東省従化、龍門県三角山で採集した W. T. Tsang
20572 May 26, 1932 はカギカズラである。

カギカズラの葉の裏面中央脈上には毛がないが、紀伊・山城には粗毛の生えるものがある。
京都の桂の松尾神社の裏山の葉は毛がないが、宇治で岡本省吾氏が 1938 年 5 月 7 日に採集したのは毛がある。田川基二博士が紀伊東牟婁郡七川村北大演習林で 1930 年 10 月 17 日に採集し
たものも裏面中央脈に毛が多い。塚本田太郎博士が紀伊大島で 1941 年 5 月 7 日に採集した
のも毛が多い。これをアラゲカギカズラと新称した。

Uncaria rhynchophylla var. hirsuta Kitamura var. nov. Folia subtus secus costam

（北村四郎）